

第1学年 国語科の実践

- 1 単元名 えやしやしんでたしかめながらよみましょう
いきもののあし

2

単元
目標

- 絵や写真と文章とを結びつけながら、内容の大体を読むことができる。
- 語や文としてまとまりを考えることができる。
- 事柄の順序に気を付けて読み、文章の大体を読むことができる。
- 「問い」と「答え」とをつなげてとらえることができる。
- 「問い」と「答え」といった文と文との続き方に気を付けて、文章を書くことができる。

3 ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

研究課題「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」

手だて・・・子どもの願いや思いを見とった単元構想と授業づくり

低学年ブロックテーマ 「感じる心、素直に表現する自分」

・人の言動に何かを感じる姿 ・自分の思いや、他者からの刺激を受け止め、素直に表現する姿

<聴く・話すの指導について>

小学校生活によりやく慣れてきた一年生。それぞれの目が教師一人に向けられ、「せんせい、あのね。」といつでも自分の話を聞いてほしい様子がある。相づちやうなずきを返しながらかくことで、子どもは笑顔になり、満足した表情を見せる。そんな1対1のかかわりを望み、自分の話をなんとか聞いてもらおうと、特に大きな声を出すなどといった周りの話をさえぎる行為をしてしまう児童も出てくる。また、自由に何でも話すのびのびとした子どもたちは、自分の思いをすぐに伝えたい。しかし、集団としてのコミュニケーションを成り立たせるために、話し手に尋ねられていることは何であり、どのような話題で学級集団としての話がされているのかをよく聞くことを学ばせたい。学校生活や社会生活においては、周りの人とつながるための言葉を獲得させ、豊かな関わりを生む力を身につけさせたい。朝のスピーチで、テーマを決め伝えたいことと、説明をつけて話すようにしている。徐々にではあるが、聴くときに大事にすることや発言の仕方を知り、それらを意識し始めるようになってきている。

4 単元と指導について

<単元について>

本教材「いきもののあし」は、児童が初めて出会う説明的文章である。「あひる」「らいおん」「だちょう」のそれぞれの足の大きな絵とその生き物のきれいな写真は、子どもたちの興味をそそる。さらに、初めのページに足の絵と「問い」が書かれていて、ページをめくると次に生き物の写真と「答え」があるというクイズのような構成は子どもたちに親しみやすい。また、「説明」の文では、「がっかりとした」や「すいすい」などの動きをより豊かに表している言葉も出てくる。普段児童が使わない言葉でもあるため、あらかじめ違う意味の言葉を提示して児童に注目させるなどして、じっくりと言葉の意味に浸り、自分で説明の文を作るときもわかりやすい表現で書くことを目指したい。足に焦点を当てると足の働きやえさの食べ方など、生き物の生活が見えてくる驚きとおもしろさに、児童は興味を持ち、生き物に対する自分の学びも高められると考える。

また、文型も、児童が興味を持って読み進めていけるように工夫されている。1文は、「これは、何の足でしょう。」と問いかけている。2文は「これは、〇〇の足です。」と答えを述べて、3文は、足の描写、4文は、「だから、～。」と足の作りの良さを説明している。特に「これは何のあしでしょう。」「これは、〇〇のあしです。」という文型が3回繰り返されていることが特徴的で、文型に慣れやすい。文章全体を通して説明されている事柄を順序正しく読み取り、1年生なりに論理的思考を養うことも期待できる教材である。

<指導について>

児童にとって、初めての説明文である。そこで、「なぞなぞあそび」や算数の問題作りなどクイズを作る楽しさや「問い・答え・ヒント」を意識させながら、本単元の学習につなげていく。そして、学習課題を「クイズブックを作って楽しもう」と設定することで、説明文の型を学びながら、動物の足のつくりや働きについて、仲間の意見や考えに触れることで児童の学習意欲を喚起することができる。

まず、オリジナルクイズをつくるために、どんなことが書いてあるのかという意識で読み進めていく。「いきもののあし」の教材文を読んで、「問い」と「答え」の関係を見つけながら内容の大体を読み取らせたい。「問い」→「答え」→「説明1 足のつくり・特徴」→「説明2 はたらき」という四文のつながりをとらえるために、写真と文とをつないで説明をさせたり、接続語「だから」のはたらきを考えさせたりする。

次に、3種類の生き物を比べながら読ませることで、文章構成や、足の形態はえさを摂取することと関連していることに気づかせ、いきもののあしクイズブックを書く時に活用させる。クイズ作りでは、全員で遠足に行った野毛山動物園のいきものについて、「いきもののあし」の教材文で学んだ文型を元にクイズを作る。そして、そのクイズ作りの方法を活かして、なるべく自分の力でクイズ作りに取り組めるようにしたい。ただ、個人差があるので、自分で生き物を決められない児童や説明の仕方が分からない児童のために何種類かの画像や絵本や図鑑をあらかじめ用意したい。

最後に、クイズブックを友だちと一緒に読み合い、楽しむ活動を取り入れることで、学習の達成感も味わわせ、入門期の学習として楽しめるようにしたい。

ここでの解決したい問題は「動物クイズをつくりたい」として、「友だちのクイズブックを読みたい」ということである。自分たちが興味のあることを調べ、クイズシートに表し、それを友だちと楽しむところに思考することや関わることを知ると考える。本時では、これまでの学習を生かし、多種の動物の足と比べたり、足のつくりや働きについて話し合ったり、学習後に特に感じたことを共有し合うこと（学びの確かめ）を響き合う姿としたい。

【実践内容】

- ◎ 集団としての会話を成り立たせるために、話し手に尋ねられていることは何であり、どのような話題で学級集団としての話がされているのかをよく聞くことを学ばせる。周りの人とつながるための言葉を獲得させ、豊かな関わりを生む力を身につけさせる。
- ◎ 写真や絵、接続後に着目しながら説明文の型を学び、クイズブックを作ったり読み合ったりすることで、読むことの楽しさを見つけられるようにする。

〈単元目標〉

- ・ 絵や写真と文章とを結びつけながら、内容の大体を読む。
- ・ 語や文として、まとまりを考えることができる。
- ・ 事柄の順序に気をつけて読み、文章の大体を読むことができる。
- ・ 「問い」と「答え」とをつなげてとらえることができる。
- ・ 「問い」と「答え」といった文と文との続き方に気をつけて、文章を書くことができる。

〈学習の流れ〉

導入 様々な動物の足の写真を提示して興味を持たせる。

「問い」と「答え」「説明」の文を集める。

中 ・動物の足のつくりと特徴を読み取る。足の形が生活と結びついていることに気付かせる。

「あひる」水かきがついている。

はやくおよぐため。

みずかきがあるから、すいすいとおよぐことができる。

「ライオン」あしのうらには、まるくてやわらかいものがついている。

あしおとをたてずに、えものにそっと近づくことができる。

「だちょう」がっちりとしたゆびが 2ほんついている。

じめんをつよくけて、はやくはしることができる。

・動物園へ行き、実際に動物の足を見たり飼育員さんの話を聞いたりする。

・動物の足の問題を作る。動物園にいた動物について、詳しく書く。

・クイズブックをつくる。みんなでつくった問題をヒントにする。

・クイズブックを読み合う。

【成果と課題】

「これはなんのあしか」を考えることにより、それぞれの動物の足の特徴や作り、そしてそれらが生活とつながっていることに関心を向けることができた。実際に動物園へ行き、写真や絵ではなく動いている足を観察することで、より興味深く特徴を探している様子が見られた。また、似ている特徴や異なるつくりを見つけ、友達や教師に知らせる児童もいた。クイズブックを作る時には、教科書の本文から書き方を学んだ後、自分で決めた動物の足について題材を選んでいった。教科書で繰り返し出てくる形式をもとに、自分なりのクイズブックを書き進めていた。完成したクイズブックを友達と交換して読み合い、選んだ動物が同じでも、違う表現で書かれているクイズを楽しんでいた。